

⑩龍福寺

もとは白石にあり陶晴賢の乱で焼失。毛利隆元が大内義隆の菩提を弔うため、大内氏館跡に再興したと伝えられます。

⑪円政寺

鎌倉時代すでに存在した寺院で、その金鼓に「山口」という地名の最古例がみられます。江戸時代萩に移りました。町名として残る付近が跡地と思われる。

⑫大市町

16世紀初め頃に始まる市夷社があったといわれ、古くから中心的な町場だったようです。大内時代は中市町・米屋町にかけて「大町」と呼ばれ、石州街道沿いに有力町衆が軒をならべました。

⑬中市町

間口が狭く奥行きが長い地割は中世に遡る可能性もあり、かつて奥行きが150mばかりあったという染物店も。北にのびる今小路は大内盛見の誕生地といわれます。

⑭晦日市

晦日（月末）に市が立った所で、江戸時代米屋町と呼ばれるようになりました。

⑮十日市

道場門前町の古称。大内弘世創建の本園寺があり、その付近に大道寺があったともいわれます。

⑯善福寺

道場門前町の町名の由来となった時宗の大寺。今八幡宮後方から現法界寺付近を経てこの地へ移ってきたと考えられます。

西の京 ～風水のまちづくり～

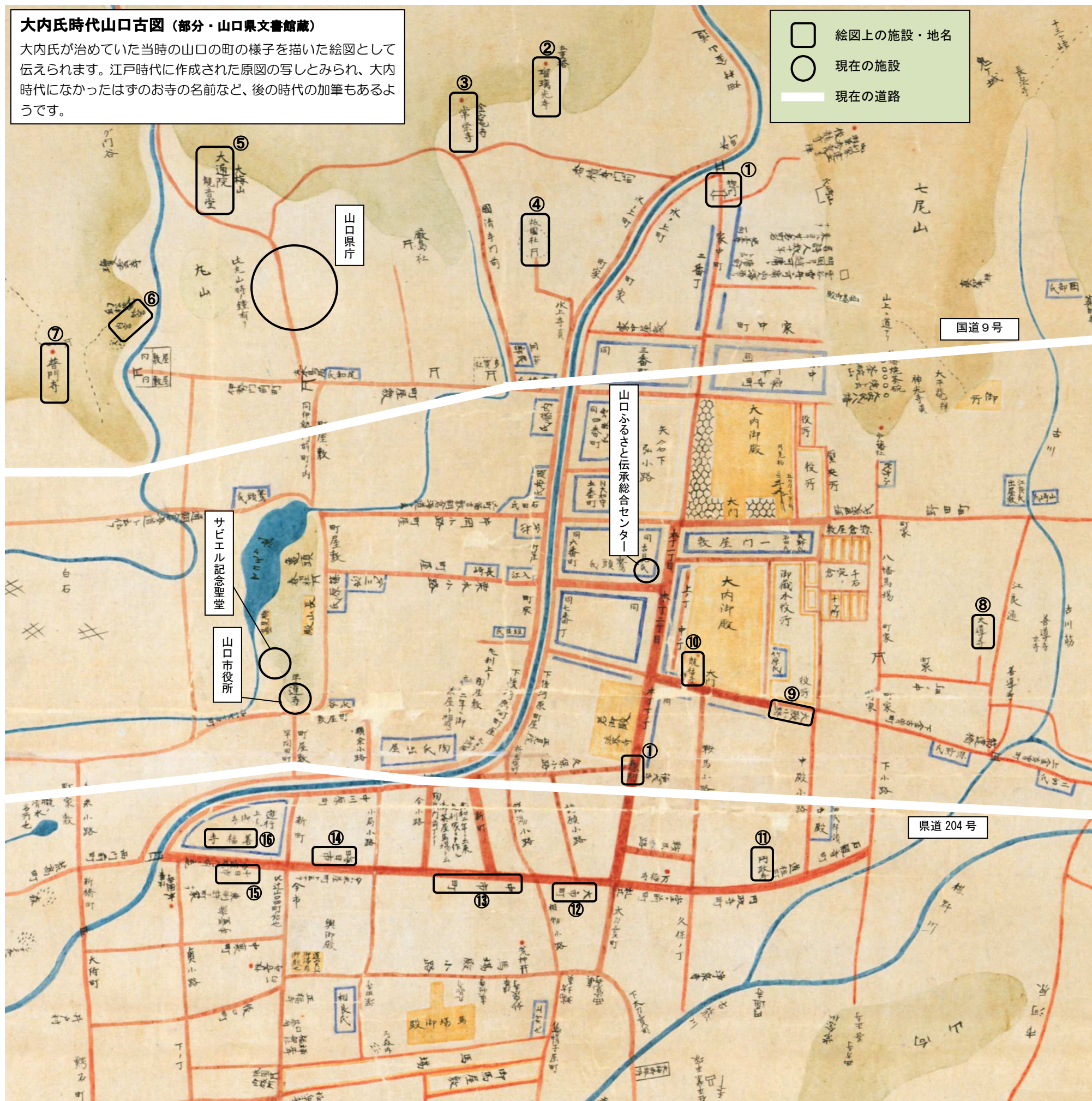
山口古図に記載された添書により、大内弘世が1360年山口のまちづくりを行ったといわれます。

「山口は四神相応にかなった地で、都の古例に倣い、法華経を東西南北中央に埋めた。中央は札ノ辻に、東は西法寺（現善生寺）の上方にある向山の山頂、西は鳳翽山の中腹、北は七尾山、南は姫山に埋めた」

山並みを背にして南に開け、前面に河川を臨み、四神獣（玄武・青龍・朱雀・白虎）によって四方を守られた、風水にかなった地・山口に大内氏は館をおきました。

大内氏時代山口古図（部分・山口県文書館蔵）

大内氏が治めていた当時の山口の町の様子を描いた絵図として伝えられます。江戸時代に作成された原図の写しとみられ、大内時代になかったはずのお寺の名前など、後の時代の加筆もあるようです。



①惣門

竪小路の二箇所、木町橋の南側と、久保小路との交差点に記されています。この間は大内家当主が住む大内館を中心とした武家地で、北側は町のはずれ、南側は町方との境界に設け、往來を制限したものとされます。

②瑠璃光寺

陶弘房の菩提寺で、元禄3年(1690)仁保からこの地に移されました。もとは大内義弘の菩提寺香積寺があった地で、五重塔はその遺構。香積寺仏殿は毛利氏によって移築され、現在の広島市不動院金堂(国宝)と考えられています。

③常栄寺

毛利隆元の菩提寺で、毛利氏の防長入国(関ヶ原後)に伴いこの地に移転、幕末宮野へ移りました。もとは大内盛見の菩提寺国清寺があった地で、明治には毛利元就の菩提寺洞春寺が移ってきました。

④祇園社

一の坂川の木町橋から下流右岸一帯にかつてエノキの森があり、そこが祇園社の古跡と伝えられます。明治の神仏分離令により「祇園社」は「八坂神社」に改められました。

⑤大通院 観音堂

大内持盛の菩提寺観音寺があった地で、毛利氏の防長入国後、毛利頼元の菩提寺大通院が移されました。大通院は維新期に廃寺に、観音堂は大正4年洞春寺境内に移され現存しています。

⑥内宮 外宮(山口大神宮)

鴻ノ峰の東麓に鎮座する山口大神宮は、大内義興が永正17年(1520)伊勢から神霊を勧請したものです。

⑦普門寺

大内弘直菩提寺。大内教弘が龍福寺として再建。陶晴賢の乱で焼失、寺号を大内氏館跡へ移した後、普門寺として再興されました。幕末大村益次郎が観音堂で兵学を教えました。

⑧大導寺(大道寺)

大内義長がトルレスに与えたという大道寺は、日本最初のキリスト教教会として知られます。サビエル記念公園付近が推定地とされましたが、異説もあります。

⑨大殿小路

「大殿」は大内氏館のこと。龍福寺門前の通りで今の大殿大路。